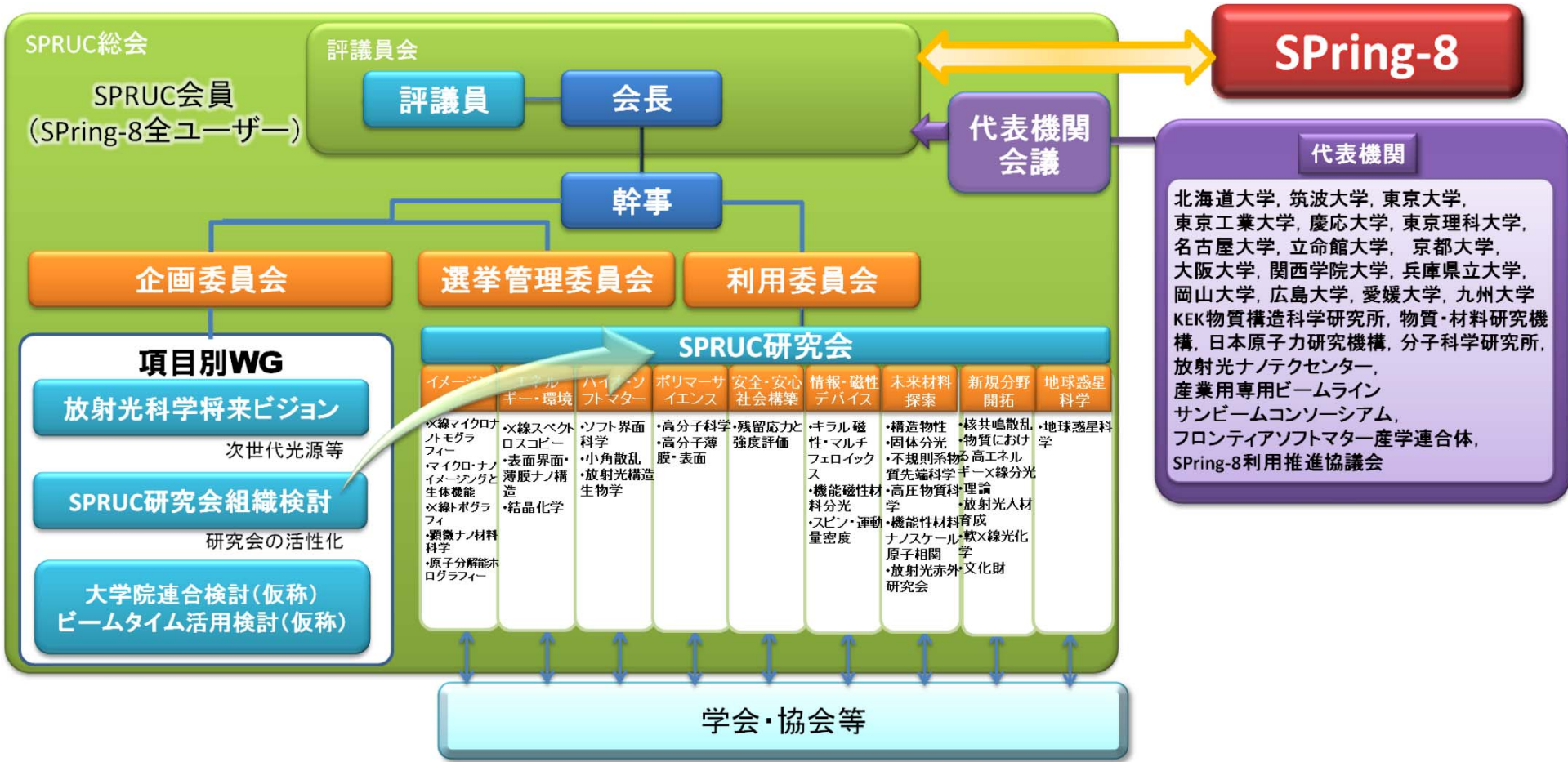


## SPring-8利用者懇談会からSPRUC (2012)への主な変革

- 1) 組織: 会員数: 約 1,200名 (建設期からの有志) から  
現在約 12,000へ (全ユーザーの自動的入会)
- 2) ミッション: 会員個々人の研究活動から、  
SPring-8の有効な利活用のための会員間の情報交換  
学術・産業における学協会と施設とのインターフェイスとなる  
施設の高度化・将来計画に対して要望を行う
- 3) 運営: 研究会を中心とするボトムアップ的運営から、  
代表機関会議によるトップダウン的運営と研究会によるボトムアップ的運営

# 企画委員会の設置

SPRUC執行部や各研究会からの要請に応じて、企画委員会が具体的なテーマに関する作業部会(WG)を時限付きで発足し、SPRUCとして取り組むべき活動の骨子を作成する。



## 「SPRUC研究会組織検討作業部会」の設置目的

SPRUC研究会を活発化し、SPring-8のより効果的、効率的な利活用による研究分野の発展と測定技術の高度化を促進するために、研究成果やチームラインに関する情報交換をより円滑に行える新たな研究会組織を検討する。この目的のために、本作業部会は、研究会の構成・活動内容についての意見集約を行い、以下の活動を行う。

1. これまでの研究会活動の評価・総括
2. 研究会活動の活性化、円滑な情報交換を目指した組織・体制作り
3. 研究会活動を評価するシステム作り
4. 本作業部会での議論を踏まえて、9月のSPring-8シンポジウム2013で新しい研究会組織の提案

# SPring-8ユーザーコミュニティ活動の変遷 研究会組織改編の必要性



1988年～

次世代大型X線光源研究会

SGによるサイエンスからのBL要望

1997年：SPring-8 建設



SP8利用懇SG

BL建設グループとして参画

## 研究会組織改編の必要性

- 1) 1,200人の研究会組織から、12,000人のユーザーの研究会組織へ転換  
Silent Majorityの利用動向の実態を把握し、放射光利用のグランドデザインに基づくSPring-8のより効果的、効率的な利活用の在り方を議論する。
- 2) 利用組織、利用分野の融合を加速。SPring-8II計画との連携強化  
共用BL/専用BL、学術利用/産業利用、グリーンナノ/ライフイノベーション等  
回折限界光源がもたらす、新学術・新産業利用分野についての議論

2002年～ 利用懇研究会  
Scienceを主体に

SPring-8利用形態の多様化

- 産業利用の拡大
- 課題解決型専用BLの設置

BL高度化  
SPring-8 II

2012年 SPRUC発足

SPRUC会員 : 全ユーザー

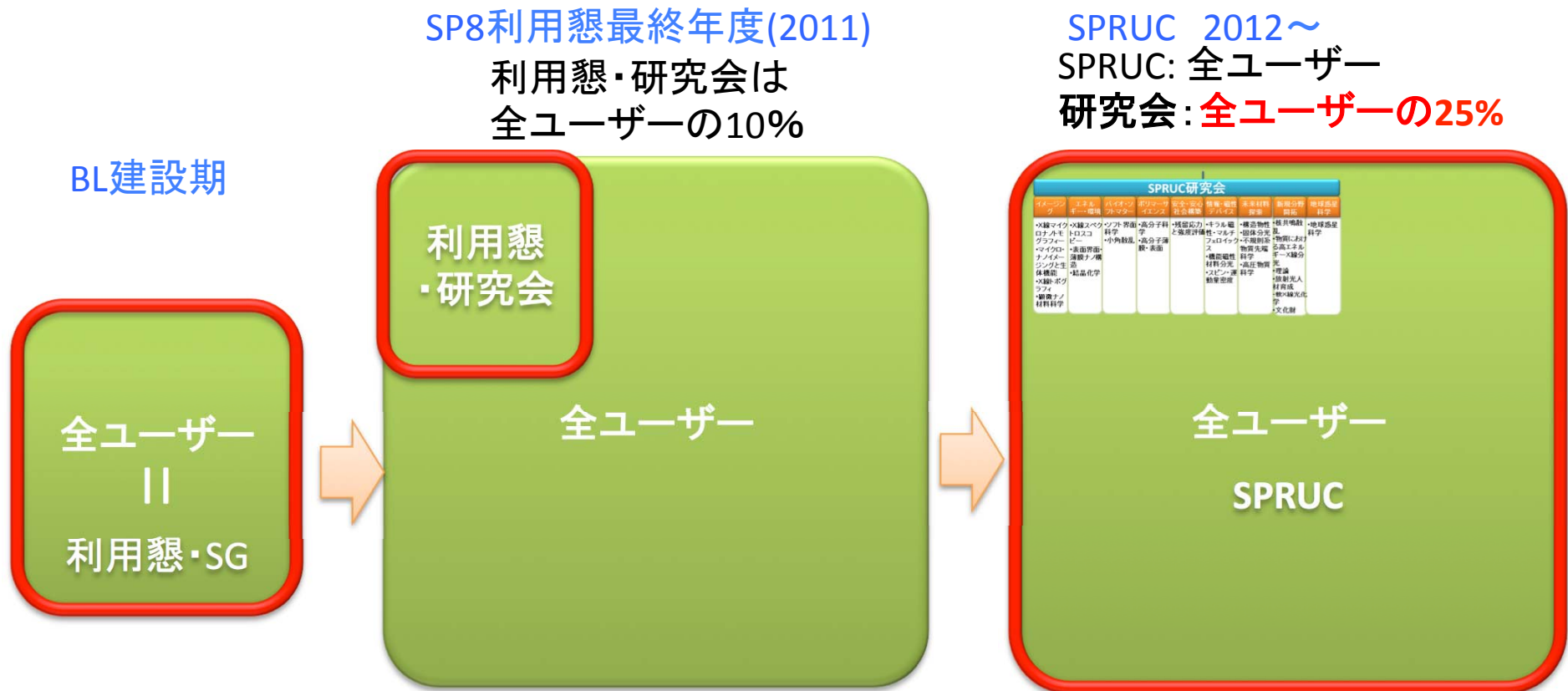
研究会会員: 全ユーザーの25%



利用懇研究会会員数  
全ユーザーの10%



# SG・研究会活動の変遷とSPRUC研究会の課題



## SPRUC研究会の課題

- 1) 多様化する分野の全体をカバーできていない(会員数の増加に対応していない)
- 2) 各研究会活動の活性化 -> 研究会活動に対する助言・提言を行える仕組みを構築すべき
- 3) 施設の高度化・将来計画に対しての意見を吸い上げる機能が不十分
- 4) 研究会は予算のない任意団体である



## SPRUCのミッション:

- SPring-8の有効な利活用のための会員間の情報共有を促進する
- 学術・産業における学協会と施設とのインターフェイスとなる
- 施設の高度化・将来計画に対して積極的な提言を行う
- 利活用研究の新たな展開と分野融合を促進する

## 各研究会のミッション

- 1) 新学術・新産業利用分野の開拓
- 2) 放射光利用のグランドデザインと、より効果的・効率的なSPring-8の利活用の在り方を議論
- 3) 利用組織 (共用BL/専用BL)、利用分野 (学術利用/産業利用)の融合を加速する 分野横断的ワークショップ等の開催
- 4) SPring-8 II 計画との連携強化

# SPRUC研究会組織検討

現状



会員数1200名時代の組織にすぎない

新研究会組織



利用研究分野の全体をカバーし、研究会活動を活性化させ、  
施設の高度化・将来計画に対しての意見を吸い上げるシステムの構築

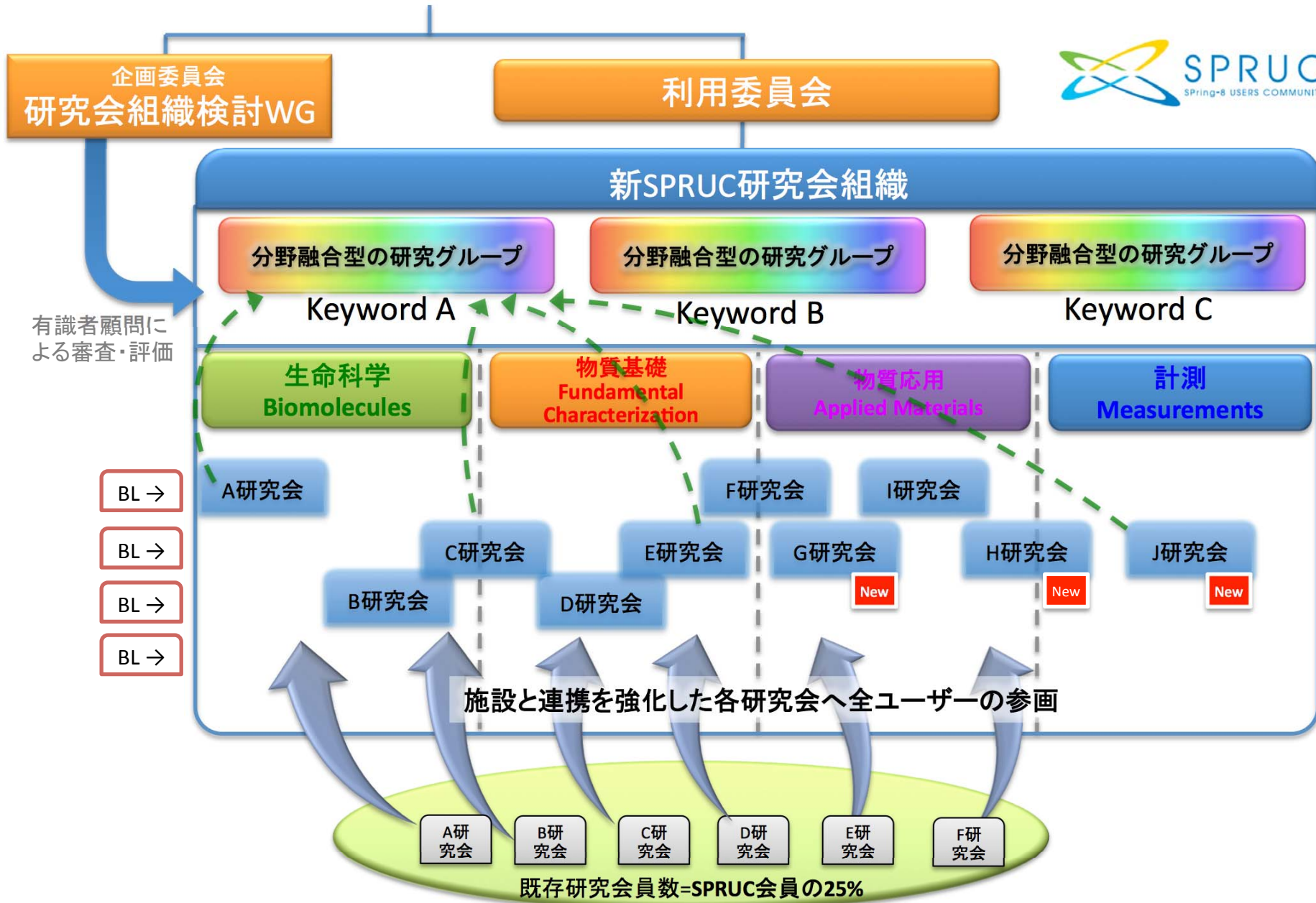


# 本作業部会の作業スケジュール

- |            |                                    |
|------------|------------------------------------|
| 平成25年6月～7月 | 新しい研究会組織について検討し、組織の見直し             |
| 平成25年8月    | 新しい組織について、各研究会・会員からパブリックコメントを募集    |
| 平成25年9月    | SPring-8シンポジウム2013開催にて、新しい研究会組織の提案 |
| 平成25年度中    | 新しい研究会組織の立ち上げ                      |
| 平成26年4月から  | 新しい研究会組織での活動開始                     |

# 組織図

- ・研究グループは「生命科学」「物質基礎」「物質応用」「計測」の4つの分野の少なくとも1つに所属する。
- ・全ユーザーが参画できるようにいくつか研究会を新設する。
- ・戦略的なキーワードに沿った活動計画を募集し、時限付きで分野融合型の研究会グループを結成



## SPRUCに欠けている研究会組織の新設

1) SPRUC全ユーザーを入会させるための研究会の新設を本作業部会が誘導

(案)	理研専用BL・原研専用BLなど	…… 高度利用開発研究会
	産業BL	…… 産業利用研究会
	プロジェクトタイプのBL	…… 課題解決連携研究会

# 研究会の必要性

- 研究分野と研究者にとって
  - 放射光施設と大学・研究機関の研究者の有機的・組織的な連携を強化する。
  - 施設の将来計画やBL高度化に関する情報を入手し、議論に参加することで研究デザインに活用できる。
- 企業にとって
  - 大学や公的研究機関と研究・開発のニーズ・シーズを融合。
  - 異業種との交流による、放射光活用の新しい視点・方向性の発見やコラボレーションの機会の創出。
- 学生にとって
  - 最新の研究手法を知り、研究の基礎を学ぶ。
  - 研究者の生の声を聞き、事例等の情報を入手して専門能力を向上させる。
  - 様々な分野で活躍している大学や企業の研究者・技術者との交流によって、幅広い視野とリーダーシップを育成。
  - 指導教官以外のスーパーバイザーや企業とのコネクションの獲得。

## 午前中の研究会活動報告を受けて

- 研究領域の見直し
- 現状と将来計画
- 施設との関連
- 領域を越えたユーザー間の技術交流
- 産-学-間の橋渡し
- 検出器等の共通基盤の将来計画
  - 施設, ユーザー